

瀬戸内市立瀬戸内市民病院だより

さんさん広場

第 107 号

《編集・発行》

瀬戸内市民病院広報委員会

瀬戸内市邑久町山田庄 845-1

TEL (0869) 22-1234

FAX (0869) 22-3296

URL <http://www.city.setouchi.lg.jp>



《理念》 市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。

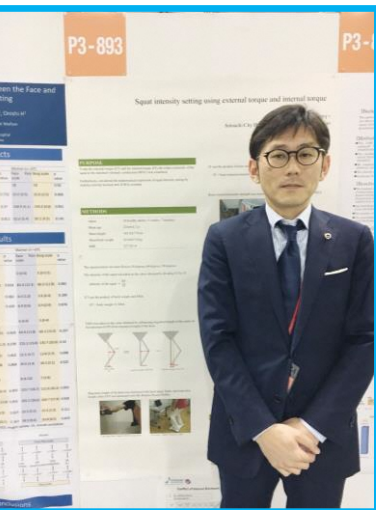
国際リハビリテーション医学会世界会議で発表

リハビリテーション科 (理学療法士) 元家佳仁

グローバルズムを実感

6月9日(日)～13日(木)、神戸市内で開催された第13回国際リハビリテーション医学会世界会議(ISPRM 2019)においてポスター演題を発表しました。当日は、浅海昇内科医長並びに平素からご指導をいただいている川崎医科大学付属病院リハビリテーション医学教室花山耕三教授が応援にかけつけてくださり、お蔭で充実した発表をすることができました。今回、6月12日(水)～16日(日)第56回日本リハビリテーション医学会学術集会(JARM 2019)と、同時開催ということもあり、とても

盛大な医学会でした。JARM 2019には、当院リハビリテーション科の本原作業療法士がポスター演題を発表しました。ISPRM 2019は、



the Cutting Edge of Medicine - 最先端医学としてのリハビリテーション医学 - JARM 2019では、Cutting Edge Trends of Rehabilitation Medicine - 最先端リハビリテーション医学の今とこれから - をテーマに様々なセッションが開催されました。ここで学んだ知識や体験を、当院リハビリテーション科スタッフと共有し、患者さんにより質の高い医療を提供できるように、頑張りたいと思います。今回、国際会議に参加することで、グローバルズムを実感することができました。即ち(次ページへ続く)

目次

- | | |
|--|---|
| □ 国際リハビリテーション医学会世界会議・・・1
で発表 グローバリズムを実感 | □ 一宿泊研修に参加して一・・・4 |
| □ 第 56 回日本リハビリテーション医学会学・・・2
術集会に参加して | □ 職員宿泊研修アルバム・・・5 |
| □ 第 62 回日本糖尿病学会年次学術集会に参・・・2
加して | □ 認定理学療法士の資格を取得して・・・5 |
| □ 地域講座 2 題 ①「大腸がんとう糖尿病の関・・・3
係について」【4月25日(木)】 | □ 自慢の医療機器紹介① ADLシミュレー・・・6
ター浴室ユニット |
| □ ②「予防接種・肌トラブル 夏に多い小児・・・3
の病気について」【5月21日(火)・6月
25日(火)】 | □ なるほど!!健康教室【5月16日(木)実施】・・・6
あなたは大丈夫?～認知症について知ろう!～ |
| □ 通算 10 回目の宿泊研修に 31 名が参加・・・4 | □ 小学生のお仕事体験 「キッズワークゆり・・・7
いか 2019」に参加しました |
| | □ 職員ボウリング大会を開催しました・・・7 |
| | □ 職員紹介コーナー「庭」・・・8 |
| | □ コール・ダンデリオン Let's sing コンサー・・・8
ト |
| | □ 編集委員のちょっと一服～オリーブの木の下で～・・・8 |

(前ページより)リハビリテーション医学の進展という共通テーマのもと、論じられた多様な発表には大いに刺激をいただきました。当院においても、各職種間・リハビリスタッフ間・患者さんとコミュニケーションを図ることで、共通認識を高め、信頼関係を築きながら多様なサービスを提供できればと考えています。

因みに、本学会では英語での発表であり、英語ネイティブな国の方の発音は、流暢すぎて聞き取ることが難しかったです。しかし、サムライイングリッシュ(いわゆるジャパニーズイングリッシュ)の方は、馴染みがあり私にとっては聞き取りやすかったです。最後に、このような機会をくださいました瀬戸内市民病院に感謝申し上げます。

第56回日本リハビリテーション医学会学術集会に参加して

リハビリテーション科(作業療法士) 本原夢乃

6月12日(水)から16日(日)にかけて、神戸市内において開催された「第56回日本リハビリテーション医学会学術集会」に参加しました。

私は、13日(木)から15日(土)にかけて滞在し、ポスター発表「食事内容における記憶の有無による認知機能の比較検討」を高次脳機能障害・精神の分野で行いました。私にとっては初めての学会発表で、発表の直前までとても緊張し落ち着きませんでした。発表が始まるとその場の雰囲気は温かく、座長の先生からも優しいお言葉をかけていただき、リラックスして発表を終えることができました。学会では特別講演等様々な分野の講義を聴講いたしました。どれも興味深くとても勉強になることばかりで、楽しく学びながら3日間を過ごしました。これからも今回の貴重な経験を活かして、日々の業務・研鑽に努めていきたいと考えています。



第62回日本糖尿病学会年次学術集会に参加して

外来看護師(糖尿病看護認定看護師) 松原ミヨ子



今回の第62回日本糖尿病学会年次学術集会は、秋田大学大学院医学系研究科内分秘・代謝・老年内科学山田祐一郎教授のもと、5月23日(木)～25日(土)宮城県仙台市内で開催されました。

私は、仙台市民会館で『患者の行動の理由を明らかにすることで自己管理行動に変化がみられた2型糖尿病患者への関わり』というテーマで発表して参りました。座長の大津赤十字病院の糖尿病専門医岡本三希子先生や会場の参加者から沢山の質問をいただきましたが、よい緊張感の中で私なりの応答をさせていただきました。そこで今回、学会に参加

する意義を4つにまとめてみました。

①研究成果を発表すること
②新しい情報を得ること
これからの糖尿病診療を支えていく新たな薬物療法や食事療法に向けた知見を得ること

③人との交流や議論

志を同じくする糖尿病関連領域の研究者・医師・メディカルスタッフとの交流で知識をより深める

④ワクワクする気持ち

研究の内容だけではなく、いかに真摯な姿勢で研究に取り組んできたか、それをいかに発表するか、また頑張ろうという自身の気持ちを高め、日常業務へのモチベーションを高める

今回、院内の多くの方々のご協力のお蔭で学会参加できましたこと、まずは感謝申し上げます。そして、この経験を基に患者さんのお力になれるよう、これからも日々研鑽に努めてまいります。

地域講座 2 題

① 「大腸がんとうちび糖の係について」

【4月25日(木)】



邑久町ボランティアグループの要請により、4月25日(木)瀬戸内市総合福祉センター大会議室で、『大腸がんとうちび糖の係について』講義をさせていただきますました。代表の方から「これらの病気や予防について学びたい」とお申し出をいただきましたので、看護師の立場から次の4つの視点でお話させていただきますました。

- ① 糖尿病って、どんな病気？
- ② 糖尿病からがんにどのくらいなりやすいか？
- ③ 大腸がんについて
- ④ 瀬戸内市の健診について

係性や大腸がんの予防策、健診の重要性について、ご参加の皆さまのお話も伺いながら、ざつとばらんに和やかなお話会ができたのではないかと思います。大腸がんのピークは60歳代。40歳代から注意が必要です。他の部位のがん同様、大腸がんも高齢になるに従って増加しています。また、痔のある方は、「いつもの痔の出血程度」と考えて大腸がんの発見が遅れがちです。わずかな大腸がんのサインを見逃さないためにも、まず健康診断を受けていただきたいと思います。今回このような講義の機会を与えていただき感謝いたします。今後も地域住民の方々のお力になれますよう、微力ながら頑張つて参ります。

(外来看護師(糖尿病看護認定看護師) 松原ミヨ子)

② 「予防接種・肌トラブル 夏に多い小児の病気について」

【5月21日(火)・6月25日(火)】

小児科では地域の子育て支援センターから依頼を受け、地域講座を行っています。

5月21日(火) 邑久子育て支援センター、6月25日(火) 福田子育て支援センターを齊藤多賀子医師が訪問し、予防接種やお子さんがかかりやすい夏の病気(手足口病などの感染症、脱水、日焼け)についてお話をしました。

参加者は0～1歳前後のお子さんを育て中のお母さん、それに子育て支援センターの保育士さんです。講座の後半は質疑応答のコーナーで、お母さんたちから質問をお受けし、普段、疑問に感じていることや心配に思っていることについて齊藤医師から細かく回答させていただきました。

近年は風疹が流行していることもあり、先天性風疹症候群について説明



し、ご両親に抗体検査や予防接種を受けていただくこと、お子さんも乳幼児期に予防接種を受けていただくことが感染症予防の第一歩であることもお伝えしました。

これからの季節は家族で海や山に出かける機会も多いと思います。気温が高くなるので、脱水や日焼け、虫刺されなどにも気をつけて、楽しい夏をお過ごしください。

(地域医療連携室)

通算 10 回目の宿泊研修に 31 名が参加

6月1日(土)～2日(日)、今年から年1回開催となった宿泊研修は、31名というこれまでで最も多い参加をいただき、市内邑久町虫明にある岡山いこいの村で行われました。仕事力レベルアップ研修と称した接遇研修はおなじみとなつた清水由美子先生に講師をお願いしました。今回は初心にかえるという意味で「医療機関における言葉づかいの基本」というタイトルでの講義でした。講師のユーモアたつぷりのジェスチャーや語りかけもあつて、とても好評で「笑顔と挨拶の大切さを知った」、「継続して受講することでの接遇の基本が身についた」などのアンケート結果が数多みられました。もうひとつ恒例となつたワークショップでは、KYT事例に接遇テキストで味付けした4例のロールプレイを用意させていただき、参加者が必ず何かの役割に当たる

よう脚本を作成しました。どのタイトルにも熱心に演技され、また議論していただきました。しかし、基本的にはOFFJT(職場外研修)です。グループワークでは本気モードながらもドーナツやジュースの味を楽しみつつ、時には冗談を言いつつ他職種の方々とうちとけておられました。このこと自体がそもそも宿泊研修の主旨・目的であり、職場間や職種間の相互理解につながるものと確信しているところであります。その他、朝の体操や声のリハビリ訓練(合唱)などもカリキュラムとして、盛り込みました。

最後に提出いただきましたアンケート結果を拝見しますと、意見交換会という名の夕食会が僅差ながら最



も好評でした。しかし、全体あるいは個々のカリキュラムでも「非常によい」、「よい」と回答された方は100%。この結果に我々幹事団としてはとてもうれしく、疲れも苦勞も吹き飛びました。皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

(事務局長 馬場洋一・医療安全担当看護師長 野口佐登美)

— 宿 泊 研 修 に 参 加 し て —

薬剤科長 森一徳

6月1日(土)～2日(日)の2日間、瀬戸内市民病院第10回宿泊研修に参加しました。

もはや「いつもの場所」と化した感のある「いこいの村」は、古き良き昭和50年代の雰囲気大いに残し、私自身が子供だった頃を思い出させてくれます。

接遇研修では清水由美子先生が「医療機関における言葉づかいの基本」という題目で、笑顔の大切さや丁寧語・尊敬語・謙譲語の違いをユーモア溢れる小話を交え説明してくださいました。日々の業務に追われ忘れがちな「心の余裕」を失わないよう、『あらゆる不具合を帳消しにしてくれる可能性のある魔法の薬』として、接遇力を見直していこうと思いました。

医療安全を中心としたロールプレイ形式のワークショップでは、私は寝たきりの老人役をしました。我ながら迫真の演技だったかも知れません。問題点と解決策を皆で掘り下げていく作業は、少々大変かもしれませんが、とても有意義な時間となりました。ここで学んだことを日々の業務に生かしたいと考えています。

職員宿泊研修 アルバム



石井地域医療連携室長に10回
連続参加記念の賞が贈られた



「写真左」認定理学療法士
(運動器領域) 宇野伸哉

「写真右」認定理学療法士
(運動器領域) (脳卒中領域)
光田和正

この度、公益社団法人
日本理学療法士協会主
催の認定理学療法士試
験を受験し、認定資格を
取得することができま
した。認定理学療法士制
度は7分野23領域から
なり、それぞれの領域に
おいて理学療法技術と
知識の両方を有するこ
とが認められた者に認
定理学療法士としての
資格が付与されます。
又、良質なサービスを提
供する臨床能力を備え、

より高度な専門性を志
向し、生涯にわたる自己
研鑽を継続する者が認
定理学療法士と定義さ
れており、資格取得後
も、専門的臨床技能と経
験を維持するために、5
年毎の認定資格更新が
義務付けられています。
これからも、自己研鑽
を怠らず、専門分野の知
識・技術を日々の理学療
法に活かせるよう努め
ていきたいと考えてい
ます。

認定理学療法士の資格を取得して

リハビリテーション科 (理学療法士) 宇野伸哉
リハビリテーション科 (理学療法士) 光田和正

自慢の医療機器紹介①

A D L シミュレーター浴室ユニット



当院では病院移転に伴い A D L シミュレーター浴室ユニット（O G 技研株式会社製）を導入しています。洗い場での移動、浴槽への出入りや立ち座りの動作練習・評価はもちろん、最適な浴槽の高さや手すりの位置を事前にシミュレーションすることができ、洗いの床はリモコン操作で昇降するので練習する方の状況に合わせて調節ができます。入院している方では病棟での入浴前の動作確認に使用

しています。住宅改修の際には手すりの位置などを参考にすることができ、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟では、退院に向け自宅でのトイレや入浴などの日常生活を想定した動作練習が大切になるので、これらの環境を調節できる A D L シミュレーターを使用することで安全で効率の良い練習が可能となっています。（リハビリテーション科（作業療法士）荒内宏文）

なるほど！！健康教室【5月16日（木）実施】

あなたは大丈夫？ ～認知症について知ろう！～

リハビリテーション科（作業療法士）小林裕一郎

こんにちは。作業療法士の小林裕一郎です。突然ですが、2017年の内閣府のデータでは、2012年には認知症の方が462万人となっており、65歳以上の高齢者の約7人に1人が認知症とのことです。しかし、2025年には600～700万人程度となり、5人に1人が認知症になるだろうと予想されています。

今回5月16日（木）さんさんホールで開催された、なるほど健康教室では「あなたは大丈夫？ ～認知症について知ろう！～」のタイトルで講師を務めさせていただきました。講義の内容としては認知症の種類やその症状について、チェック方法や予防方法の要点をまとめながら説明させていただきました。

教室には14名の方が参加してくださいました。お話の途中で実際に認知症の簡易検査や予防体操を行っていただきました。やや複雑な体操も行っていたのですが、真剣に取り組みれていた参加者の方々がとても印象に残っています。



座学だけでなく、簡単な質問や実技を行っていたことで、認知症についての理解が一層進まれたのではないのでしょうか。

講義後にはご質問もいただき、可能な限り回答をさせていただきました。しかし、十分な説明となつたかどうか不安なところ、私自身勉強不足と感じることも少なからずありましたので、今後も一層研鑽に励んでいかなければと感じているところです。次回は、今回よりも更にわかりやすく、参加された方々にもっと興味をもってもらえるような情報をドシドシ提供していければと考えています。

小学生のお仕事体験

「キッズワークゆりいか 2019」に参加しました

『「地産地消!」及び『「働くこと」と「瀬戸内市」の魅力発見』の二つをテーマに第4回目となる瀬戸内市商工会青年部主催の「小学生のお仕事体験 キッズワークゆりいか2019」が4月27日(土) 邑久スポーツ公園で開催されました。瀬戸内市内の全小学校3、6年生を対象に、子供たちに働く楽しさや喜び、お金を稼ぐことの重要性を感じてもらえる取組みにということで、「ゆりいか」という仮想通貨を用い、社会の仕組みやお金の流れについて、楽しみながら学ぶという趣旨のイベントでした。

当日は、ゴールデンウィークの初日でもあり、たこやき屋さん、パン屋さん、洋菓子屋さん、カフェなどの飲食店やネイリスト、タイル屋さん、溶接屋さんなど多種多様な出店ブース22店舗。参加児童は189名、同伴者などを含め約400名と多くの方が参加され賑わいました。

当院のブースには約30名の小学生が体験訪問されました。白衣を身にまとい、医師や看護師



(病院事業部長 小山洋一)

に扮した子供たちが、血圧測定体験、聴診器による診察体験、点滴器具や手術道具(主にピンセット)の使用体験を行いました。

また、子供たちに大人気の注射器を利用した「注射水鉄砲」には、リピーターとして毎年参加するお子様もいて、その成長振り確かめられることもこのイベントに参加する醍醐味です。子供たちが将来の仕事を選択するとき、この体験を思い出して医療分野に進んでくれることを期待し、次回も参加させていただきます。

職員ボウリング大会を開催しました

職員親睦ボウリング大会を6月19日(水)に長船町のコーシンボウルで行いました。

4月から新しく採用されて当院の仲間になった若手職員から多数の参加がありました。しかし、病院には様々な職種があるため、普段一緒に過ごすことのない職員も多い中、共にスポーツの初夏を満喫することができたのではないでしょう。今年参加者は職員36名とその家族(子どもたち)。個人戦・ペアマッチでスコアを競い合いました。

投球の度に同僚の仲間からストライクだ、スベアだとかちらちらで歓声が上がりました。その一方でガーターの連続に照れ笑いする人がいたり、笑顔で励ます人がいたり微笑ましい場面も



見受けられました。また、普段働いている姿からは想像がでないような豪快なフォームで投げる人がいたり、意外な一面の発見に驚きと拍手、笑い声が上がっていました。お互い仕事から解放されリラックスできる楽しいひとときを共有できました。参加者は1位から順に景品を受け取り、互いの健闘を称え合っていました。(レクリエーション委員会)

職員紹介『庭』



こんにちは、事務局主事の秋山智彦です。

仕事は主に経理を担当しています。経理業務の経験は長くないので上司に助言をいただきながら、適正な処理ができるよう努めています。

私の最近の楽しみは、休日に自動車でドライブに行くことです。購入して日が浅く、まだ使ったことがない機能があるので、連休では遠出をして試してみようと思っています。

最近の自動車は、様々な安全装置がついていて安全かつ快適に運転できますが、新聞やニュースでも目にするように、ちょっとした不注意が大きな事故に繋がりがねません。皆様も安全な運転を心がけて楽しいカーライフを送りましょう。

★★ 次号の「庭」★★

北病棟看護師の吉國砂紀さんです。ご期待下さい。

コール・ダンデリオン Let's sing コンサート

6月8日（土）午後1時30分、2階のリハビリテーション室は急遽コンサート会場に衣替え。主に瀬戸内市内で活動されている熟年コーラスグループ「コール・ダンデリオン」の Let's sing コンサート in setouchi hospital が開催されました。同グループのコンサートは2年前の6月に続き2回目となりました。男声3名、女声9名、ピアノ1名、指揮者1名の計14名の方々が紡ぎ出す清々しい歌声に、会場にお越しの約40名の方々は大いに魅了されたようです。童謡「あめふり」や「かたつむり」など遠い昔に思いを馳せるしばしの時間もよいものだなと感じました。私は「四万十川」というさわやかな曲に、10年前息子が出場した100km ウルトラマラソンの応援で訪れた高知県西部を流れる雄大な四万十川の清流が鮮やかに思い出されました。（事務局長 馬場洋一）



編集委員の

ちょっと一服



～オリーブの木の下で～

私が就職した頃、40代50代の先輩方に「昔はあなたみたいに痩せていたのよ」と言われていました。当時の私は身軽に様々なスポーツを得意とし、その言葉を深くは捉えていませんでした。それから約30年が経過し、幸か不幸か高コレステロールと体重増加で只今、半年間の特定保健指導の真っ最中です。そして職場の若者達に「想像できないかもしれないけど、昔は私もあなたみたいに痩せていたのよ」と言っている自分が居ました。（N）

